



M. S 英語英文学科 2年次

参加期間： 2015年2月13日～3月15日（4週間）

受入校： Williamstown North Primary School（メルボルン）

I. 教育実習について

海がすぐ近くにある素敵な小学校でした。Prep(5歳)～6年生まで全校生徒約700名の授業をサポートしていました。ほぼ毎日1～5限まで授業が詰まっていて、やりがいがありました。低学年は、折り紙や挨拶、ひな祭りなど日本の文化を学び、高学年になると本格的にひらがなの学習が始まります。どの学年もパズルやパソコンを利用して、生徒が楽しみながら学習できるように工夫されていました。

授業中は生徒の質問に答えたり、発音のお手本をしたりしていました。



生徒の前で、英語・日本語を交えながらプレゼンテーションをする機会もありました。そこで紹介した日本のスイーツ（パフェなど）や成人式の写真は、予想以上に良い反応をもらえました。

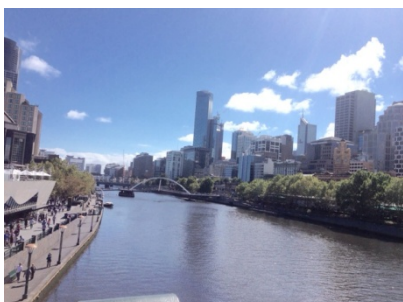
毎週水曜日は職員室で、お菓子パーティがありました。先生同士とても仲が良く、心地の良い時間でした。生徒は皆とてもフレンドリーで昼休みは、かけっこをして遊んでいました。小学校であったため、子どもがよく使う英語を学ぶことが出来ました。

この実習で得たものは一言で表すことが出来ません。英語力の向上だけではなく、自国の教育方針や文化を外から見ることにより、理解を深めることが出来ました。

II. ホストファミリーについて

都合により最初の1泊だけ別のファミリーで、後の約1か月間は7歳の女の子がいるファミリーと過ごしました。彼女は同じ小学校に通っていたため、一緒に歩いて下校することもありました。幼くても、私がネイティブでないことをよく理解していて、分からなかった単語

を説明してくれる優しい子でした。



平日は、映画鑑賞やヨガを楽しんで、休日はショッピングセンターや海に連れて行ってもらいました。また、交通の便が良かったため1人で電車に乗ってシティに出かけることもありました。親戚の集まりで知り合ったマザーの姪とも仲良くなれて、連絡を取り続けています。どちらのファミリーも親切で、すぐに馴染む



ことが出来ました。お別れの際「他の人が家にいることを忘れてしまうくらい一緒にいて心地がよかった」とマザーに言ってもらえて嬉しかったです。

Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

私は、海外での日本語学習に興味があり、自分以外日本人がいない環境に身を置きたかったため TJFL を選びました。このプログラムは出発前の準備がとても重要です。実習先では先生と呼ばれるため、責任のある立場にあることを忘れてはいけません。質問されたことはあいまいにしておかず、きちんと答える必要があります。また、教育に携わるため犯罪経歴の証明など準備にある程度時間がかかります。

英語能力が足りないからと諦めないでください。自身がなくても、努力することで伝わります。1 か月という短い時間ではありますが、他のプログラムでは出来ないようなたくさんの発見があります。



A. M 英語英文学科 2年次

参加期間： 2015年2月13日～ 3月15日（4週間）

受入校： Copperfield College（メルボルン）

I. 教育実習について

現地の受け入れ先の学校は、町から離れた静かな場所にあり、3つのキャンパスがある大きな学校でした。他の国からオーストラリアにやってきた生徒も多く、キャンパスによっても個性があり、とても賑やかでした。主に2つのキャンパスで実習を行い、休み時間や空きコマに現地の日本語教師の先生と車で移動しました。Year7,11,12（小学校6年生と高校1,2年生）が私の担当で、2人の先生について授業をサポートしました。まず、Year7の授業は、日本語を勉強しはじめだったので、ゲームや平仮名の練習をしました。教室をグルグル回ってしっかりやっているか見たり、何か質問されたら答えたりしていました。生徒はやんちゃで人懐っこく、「先生！これ何？」「先生！日本って…」と質問してくれるとても元気な生徒達でした。私のたどたどしい英語でも、最後までちゃんと聞いてくれたり、困っていた時に助けてくれたりと本当にいい子たちでした。最後の授業では、浴衣を着て書道の授業をやらせてもらう貴重な経験ができました。短いパワーポイントをつくり、生徒たちの前で説明し、自分の名前を筆と墨で書いてもらいました。次に、Year11とYear12の高校生の授業についてです。小学生の授業とは打って変わって本格的な学習でした。Sacという大切なテストにむけて、エッセイを書く練習を手伝ったり、会話の練習をしたりし、一対一で見てあげることが多く、また、例文を書くことや宿題とSacテストの採点を行いました。授業の途中で皆が疑問に思ったことや日本の文化に触れたときには、その場で説明したり、写真を見せたりしました。実習に行く前に英語で日本の文化を少し説明出来るようにしておく役に立つと思います。先生方は、とても親切で明るく、日本語も話せたため、英語と日本語両方を交えて会話することができ、不安や緊張感は無くコミュニケーションをとることが出来ました。空き時間には、授業前の準備や宿題のチェックを行い、時間に余裕があった時には、他の先生の授業に参加させていただきました。家庭科や英語のクラス、水泳大会のようなイベントにも行くことが出来、とても充実した毎日で忘れられない素敵な思い出になりました。

II. ホストファミリーについて

私のホームステイ先は、マザーと妹さんの二人が住んでいて、大きな犬もいました。シティーからは車で40分ほどかかる静かで綺麗な住宅街でした。学校から車で30分ほどかかりますが、マザーが研修先の学校の先生だったので、交通手段に困ることはありませんでした。近所に親戚の方が住んでいて、よく夜ご飯を食べたり、休みの日の朝にカフェに行ったり、皆さんとても親切で優しかったです。帰国する3日前にマザーの両親が長旅から家に帰ってきたため、より家の中が賑やかになり、帰るのが寂しかったです。ファミリーの都合により、1週目と3週目の週末はそれぞれ違う先生の家でホームステイさせていただきました。メルボルンに到着する前に移動の話を知っていたので、困ることもなかったです。3軒とも全く違う地域だったので、雰囲気や



町並みが異なり、とても面白かったです。到着する前は、ホームステイに関して心配事（食事や会話など…）が多々ありましたが、困ったことは特になく、周りの人たちが本当に優しく明るい人たちだったので、恵まれていました。また、コンビニやスーパーが多く、日用品も揃っているため何か必要なものがあれば、ほとんど手に入れることができます。週末には様々なところに連れて行っていただきました。季節的には夏の終わりごろだったため、海へ行ったり、シティー観光したり、コアラの写真を撮りに行ったりしました。遠いですが、シティーからずっと北の方に行くといく田舎の風景を見ることが出来、特にワイナリーのある有名な土地は本当に美しく広大でおすすめです。

Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

プログラムの前に現地の先生とやりとりをして質問して不安要素を少しでも減らしておくことと、写真や日本の文化を紹介できるものを準備しておくと思えます。ホストファミリーとは、英語で会話しましたが、易しい単語や簡単な表現を選んで話してくれたので、安心でしたが、もっと英語で表現出来たらなぁと思ったので、もう少し英語を勉強しておけば良かったと思いました。

何か伝えようとするれば、現地の人達は辛抱強く最後まで話を聞いてくれます。困っていたら、助けてくれて、励ましてくれます。メルボルンのゆったりとした時間で自分を見直してみたり、色んなものを見て、沢山の事に挑戦したり、全ての事が新しく、大げさかもしれないですが、価値観が変わりました。本当に貴重な経験で参加して良かったと絶対に言えますし、上手く伝えられないのですが、迷っていたり、少しでも行ってみたい、自分を変えてみたいと思っていたら、参加してみてください。





K. F 英語英文学科 1年次

参加期間： 2015年2月13日～3月15日（4週間）

受入校： Buckley Park College, Aberfeldie Primary School（メルボルン）

I. 教育実習について

私は小学校と高校を決めきれなかったので、どちらも実習に行きました。週に2回小学校、週に3回高校に行きました。

小学校では、Prep(年長さん)、1・2年生、3・4年生のお手伝いをしました。私が行った小学校は、1・2年生、3・4年生がまざっているクラス編成でした。ひとつだけ4・5年生のクラスもあるそうです。

Prep、1・2年生は外国人の日本語の先生で、授業では、工作のような授業が多かったです。2月3月だったこともあり、節分のオニのお面作りや、雛祭りの雛人形作りや、それらのぬり絵をしていました。子供たちは皆とても元気で、日本語が大好きなようでした。頭肩ひざ足ひざ足の歌を習っていて、日本語の授業以外でも歌ってくれて、とても嬉しかったです。3・4年生は日本人の先生だったので、とてもよくしてもらいました。授業ではあいさつや年齢、学年の言い方を通して会話の練習をしていました。子供たちは日本人が来たことをとても喜んでいたので、すぐに私のことを覚えてくれました。スケジュールの関係で、2回だけ、Prepの普通の授業のお手伝いをしました。Fonix や図形の勉強など、英語で英語の授業をしていて、とても興味深く、楽しかったです。

高校は中高一貫で、少しずつ全ての学年の授業に出ました。日本語の先生は3人おられました。先生方はとても日本語がお上手で、言葉の面で困ることは全くありませんでした。10・11・12年生(高校1・2・3年生)はかなり日本語が上手で、1対1、1対2くらいの個人でのスピーキング練習が多かったです。家族、趣味、スポーツ、など、私たちが高校で英語の勉強をするときに話すトピックと同じような内容でした。他にも、12年生の作文の添削や、10・11年生用のリスニングの自己紹介の録音をしました。文法は“て form”（～して、）を勉強していました。オーストラリアの生徒は皆とても積極的で、少しでもわからないことがあれば、手をあげていたのが印象的でした。スピーキング練習でも、恥ずかしがることなく、たくさん話してくれて嬉しかったです。

Buckley Park College は日本に姉妹校を持っていて、3月6日から1週間、日本から姉妹校の生徒と引率の先生方がいらしていました。高校生同士の交流は、オーストラリアの生徒も日本の生徒も、どちらもとても楽しそうでした。

Prep から12年生まで、幅広い年齢の日本語を学ぶ生徒と関わることができて、とてもいい経験になりました。どちらかに絞らず、小学校にも高校にもどちらにも行くことができて、本当に良かったです。



Ⅱ. ホストファミリーについて

ホストマザー、18歳の双子の女の子、12歳の男の子、15歳の留学生の男の子、ペットの犬がいました。12歳の男の子は、学校で日本語を勉強していて、さ行を覚えているところでした。ホストマザーはカイロプラクターの仕事をしていて、家にも患者さんが来ることが多く、ひとの出入りが多い家でした。患者さんの中にも、学生時代に日本語を勉強していた、というひとが何人かいました。日本語を勉強しているひとが多いことを実感しました。

バスケットボールのリングがあったので、夕食後によくバスケットボールをして遊びました。ごはんは野菜をたくさん使っていて、毎回とてもおいしかったです。家族が多いので、食器洗いは大変でしたが、皆で協力して片づけていました。

私は上手に英語を話せるわけではありませんが、ホストファミリーは皆最後まで私の話を聞いてくれたり、丁寧に話してくれました。学校までの送り迎えも毎回ホストマザーかホストシスターがしてくれました。初日に箸を渡したら、興味を持ってすぐに使ってくれて嬉しかったです。

Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

このプログラムは教育実習ということで、先生として見られます。これはとても貴重な経験だと思います。少しでも興味を持ったら参加してみるべきです。自分の母語である日本語を一生懸命に勉強している人がいるということは、とても嬉しいことだと思いました。英語で話すとなると、自信がなくなってしまうかもしれませんが、生徒たちが求めているものは日本語です。そう思って授業に出ると、自信が持てました。また、生徒たちとスピーキング練習をする上で、自分も正しい日本語を話さないといけないと思い、きれいな日本語を心がけることができました。そして、生徒たちの日本語に負けないように、私も英語の勉強を頑張ろうと思いました。先生方とはほとんど日本語で話していたので、アウトプットの機会はホストファミリーとの会話や街でのちょっとした会話くらいでしたが、リスニングにおいては、全ての時間がリスニングの機会です。なので、生活全てがリスニング練習でした。

言葉が違う外国に行くことは不安だと思いますが、オーストラリアでは、目が合うと皆笑顔で”Hi, how are you?”と言ってくれます。そして、”Good, thanks.”と返します。気候も人も、とてもあたたかい国です。このような素晴らしい体験を、多くの人にしてほしいです。